

かわいいこぐまのサーカス団がやってきた!

平成15年9月1日から5日まで、周産期医療センターの研修室A・Bにて、テディベア展「こぐまのサーカス芸公園」の展示がありました。通院中や入院中の患児様やそのご家族に楽しいひとときを過ごしていただければと、ボランティアの寺田るみ子様・入野芳子様が生み出したものです。開催当日からたくさんの患児様やご家族の方が来られ、かわいいぬいぐるみの世界に魅入られていました。



What's new in the hospital?

診療部 トピックス

◆目立つキズ、目立たないキズ

形成外科 西本 聡

ヒトの体ではケガでも手術でも皮膚に傷がつけば残念ながら必ず傷あと“**瘢痕**”が残ります。割れたお皿を接着剤でくっつけてもひび割れが残るのと同じようなもので、この接着剤にあたるのが傷あとです。ある種の医療機関では“**傷の残らない手術**”を宣伝していますが“**ウソ**”といわざるを得ません。

ただ、傷あとには目立つものと目立たないものがあります。形成外科医ではできるだけ目立たない傷にすることを目指しています。

手術などで縫った傷は1週間から10日ほどすると皮膚の一番表層にある表皮と呼ばれる部分がくっついて外から細菌などが侵入してくるのを防ぐバリアとしての役割を果たせるようになります。このころには少し深いところで繊維組織が強くなり、無理にひっぱらなければもうはずれることはありません。抜糸するのはこのころで、これ以降、傷の処置は必要なくなりお医者さんからは“**キズは治りましたよ**”といわれます。

しかし繊維組織はまだまだ活動を開始したばかりで、半年ぐらいは強度を増していきます。これが過剰に生産されて表面に目立ってくるというゆる“**みみず腫れ**”のキズになります。この状態を形成外科では肥厚性瘢痕になるかどうかは個人差があります。同じ外科医が同じ部位をまったく同じように手術をしてもある患者ではまったく目立たないような傷になり、またある患者では見るからにひどいみみず腫れになってしまうことがあります。今のところどういふ人が肥厚性瘢痕になりやすいのかを事前に知るすべはありませんが有色人種は白人よりも肥厚性瘢痕になりやすい傾向にあるようです。

またキズの場所や方向によっても差があります。呼吸や運動でよく動く場所である肩、胸部（心臓の手術など）、恥骨上部（帝王切開など）、関節の部分は肥厚性瘢痕になりやすい場所です。肥厚性瘢痕は数カ月あるいは数年で徐々に白く平坦になっていきます。

まれにこの赤い盛り上がりが増瘍のようにどんどん拡大していくものがあります。形成外科ではこれをケロイドと呼びます。一般の方々は見ただ目に悪いキズはすべてケロイドと呼ばれていますが、その多くの場合は肥厚性瘢痕です。

●まずは予防

受傷早期から3カ月ぐらいの間にキズは幅が広がるような方向に力がかかります。この力をやわらげるためにキズに直交するような方向に紙テープを貼ります。顔などではキズの組織は日焼けして色素沈着しやすいので光を通しにくい茶色のテープをお勧めしています。ただし、テープにかぶれる方は逆効果になりますので中止してください。

●肥厚性瘢痕、ケロイドの治療

◆外科療法

切除してもう一度縫合しなおします。縫合は表面だけではなく皮膚の下でも縫合します。この糸は抜糸しません。傷の方向を変えてやることで力を分散させるような細工をしたりします。放射線（電子線）照射を併用することもあります。

◆薬物療法（内服）

リザベンというもともとアレルギー性鼻炎やアトピー性皮膚炎の治療薬に効果が認められています。即効性はなく数年にわたってのみ続ける必要があります。

◆注射療法

ステロイドという薬を直接キズに打つ込みます。

◆軟膏療法

ステロイドの塗り薬を塗ります。

◆ステロイドテープ貼付

持続的にステロイドを吸収させることができます。





病院長 中村 肇

こども病院がもつこれからの役割

本院は、昭和45年に県政100周年記念事業として、国立小児病院に次いで全国二番目の小児専門の総合病院として開設され、小児のための総合的、高度専門医療の拠点として兵庫県の小児医療水準の向上への役割を担ってきました。二十世紀後半の医療の進歩は、科学技術の進歩による医療機器・医薬品の開発を取り入れた高度専門医療が中心であり、我が国の医療水準を世界一に押し上げました。二十一世紀に入り、社会は大きく激動しています。われわれはいま、小児医療への社会のニーズは何であるか？を、一緒に考え、行動しなければならないと思います。われわれ子どもに携わる医療者は、単に疾病治療だけでなく、疾病治療を通じて、「すべての児童は、心身ともに健やかに生まれ、育てられ、その生活を保証される」という児童憲章の具現化に努めなければなりません。

1) 「安心できる子育て」の実現

少産少子社会に入り、ひとりひとりの子どもへの親の期待は従前に比べ遥かに大きく、また核家族化の社会であるために親の育児不安は一層高まっています。指導相談部の機能をより一層充実させ、地域の医療資源・社会資源の活用を図りながら、たとえ疾病・障害をもつ子であっても「安心できる子育て」の実現を目指したいと思います。

本院では、昨年10月から小児救急医療室を開設し、小児三次救急を中心とした救急患者の受け入れ

体制を整えました。兵庫県下各地からの三次救急患者の受け入れを行っていますが、救急患者用ベッドは6床のみで絶えず満床に近く、各地の小児医療機関と連携をとりながらその有効活用を図っています。小児救急では、必ずしも生命に関わるような重症患者でなくても、ご両親にとっては夜間の子どもの変化は心配なものです。本院では小児三次救急施設とは言え、毎日数件の電話による相談があります。多くは電話のみで解決しますが、なかには最重症患者が紛れ込

み、緊急で来院頂いた患者さんもあります。専門の医師・看護師によるトリアージ機能・デストリビュート機能を備え、より充実した小児救急体制の実現を図り、救急救命だけでなく、「安心できる子育て」支援に貢献したいと考えています。

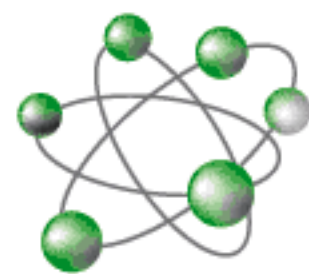
2) 生活空間のアメニティ改善 「子どもだから、これでよい」ではなく、「子どもだから、こうしてあげねば」という発想をもつことです。大人は不満があれば、すぐに口に出しますが、子どもは決して口に出しません。ご意見箱「ハートメッセージ」では、親が我が子の代弁をして下さっています。しかし、子どもにずっと付き添っているのは医療者です。医療者は入院中の子どもたちのお父さんであり、お母さんです。絶えず子どもたちの代弁者であることを忘れずにいて下さい。医療者自身が、子どもの目線で声を出さないと子どもたちのアメニティは改善されません。

3) 情報社会から取り残された医療 こども病院では、子どもさんだけが入院されていることから、入院中の出来事を親が知り得るのは、医療者だけからなのです。われわれも積極的に医療情報の開示に努めてはいますが、パソコン、携帯電話とこれだけ日常生活でITに馴れ親しんだ社会の中では、ご家族になかなか満足していただける情報をうまく提供できていないのが実情です。

カルテの記載は、私が医師になった30年前とほとんど変わっておらず、患者さんが読まれても先ず分からないと思います。今日のカルテシステムでは、誰がみても分かる記載をするのは困難です。折角ばく大なる量の各種検査・治療の電子化された医療情報があるのに、統括的な処理システムがないために手仕事でカルテに転載するという前近代的な処理が医療の現場ではなされているのです。従前に比し数十倍にも増大した情報の洪水の中で、昔ながらの手法というアンバランスが医療者へのストレスとなり医療過誤の原因となっています。

医療分野におけるIT化が、一般社会から大きく取り残されている理由としては、「患者情報の保護・守秘」という面があったからだと思います。しかし、患者情報を患者と共有する体制ができつつある医療機関では、IT化の推進を図ることが医療の透明性を高め、医療不信への解消に結びつくと考えています。

IT化が実現するまで、当院では人海戦術で患者・ご家族に納得していただける医療を目指していきたいと思っています。



◆「栄養と食生活の絵本展」

昨年度から患者様へのサービス向上の取り組みとして、入院・外来患者様及びその家族を対象に「栄養と食生活の絵本展」を開催しております。

この催し物は特に外来患者様や家族の方々の診察等の待ち時間を有効利用していただき、「栄養知識の普及啓蒙」を図ることを目的として実施しているところです。

昨年度は8月20日、9月3日の2回開催させていただきました。多くの患者様や家族の方々がご参加され、好評を得ましたので、その内容の一部を紹介させていただきます。

内容

1. 毎月替わりで栄養相談室前に掲示している「栄養の絵本」という手作りの栄養指導媒体を一斉に掲示しました。案内役としてスタッフを配置し、簡単な質問に答えることができるようにしました。

2. 掲示物「各飲料とカロリーの展示」として普段安易に飲むジュースや清涼飲料水、コーヒー飲料等が「砂糖」や「ご飯」に換算されるとどれぐらいの量になるのかを視覚により確認することで栄養知識を高めて頂きました。



●「栄養と食生活の絵本展」開催風景

3. 栄養や食品に関するパンフレットを配布しました。
4. 栄養相談室を解放し、管理栄養士による簡単な栄養相談コーナーを設置しました。
(ただし、主治医の指示の必要な疾患についてはその旨、説明し後日改めて栄養指導依頼により栄養相談を実施することとしました。)

結果

1. 外来の待ち時間を利用して掲示物や展示物を見て頂くことで、参加された方からは「おもしろかった」「知らなかったことが理解できた」「待ち時間が有効利用できた」「役に立った」等々の意見が伺えました。また、掲示物はお子様にも理解しやすいよう「絵本」型式で「絵」「ひらがな」を中心に記入したため「わかりやすい」と大人の方々にも好評でした。

2. 栄養や食品に関するパンフレットを配布し、若干の説明を加えることでより一層理解が深まり、資料の有効利用が図れると思われました。

3. 掲示等をご覧になっている方々に気軽に声掛けし、話を伺うことで患者様や家族の方々への気さくな雰囲気の中で栄養知識等の情報提供が可能となりました。

今年度は9月下旬及び、9月上旬、11月中旬の計3回を開催する予定をしておりますので、外来等にお越しの際はお気軽にお立ち寄り下さい。



●掲示物「各飲料とカロリーの展示」風景

Notice from Dietician 栄養指導課案内



放射線科 ひと口メモ

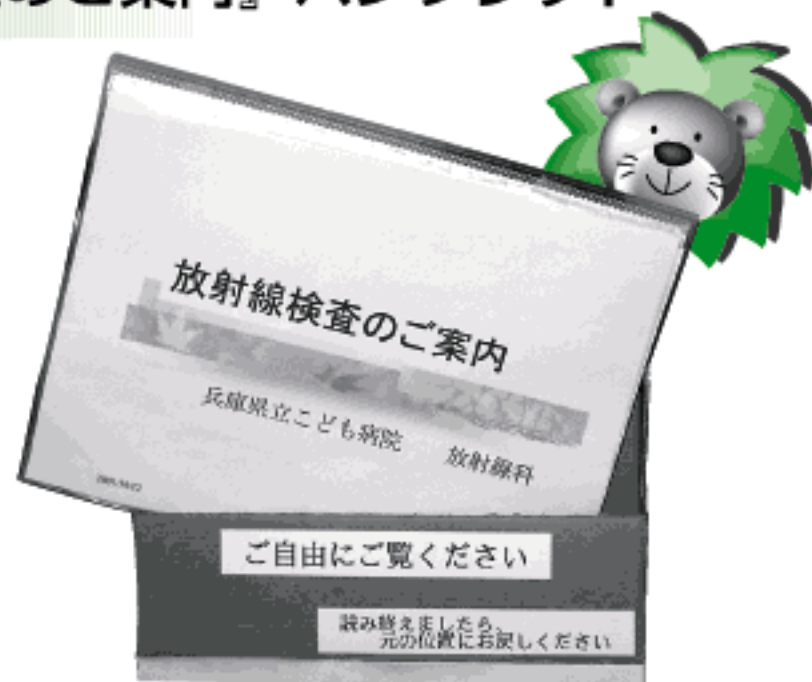
◆ご存知ですか？「放射線検査のご案内」パンフレット

放射線科の場所はみなさんご存知ですよね。でも、その受付カウンターの上に「放射線検査のご案内」という表紙のパンフレットがあるのをご存知でしたか。2001年10月に放射線技師が作成し、患者様や家

族の方々に、自由に閲覧していただいています。内容は、放射線について・その被曝と影響・検査の流れと注意点に加え、Q&A方式でよくある質問にお答えしています。一度手にとってご覧下さい。放射線科では最適な検査が行えるように創意工夫していますが、お気づきの点があれば何なりとご指摘下さい。

(芦原)

Memorandum from Radiology



◆お薬こんな時どうしたらいいの？ シリーズ第2弾

●「困っています。坐薬を買いましたがどうしたら良いのか教えてください！」

アルミ包装に入った小指大の坐薬を受け取って困っておられるお母様方をお見かけします。

薬が入っている袋には「肛門挿入1/2個づつ」とだけ書かれています。

どうしたらいいのかなあ～そんな質問にお答えして

◆赤ちゃんへの坐薬の使い方

まず、手をきれいに洗って下さいね。清潔な指で

フィルムをはがし、坐

薬を取り出した後、家

にあるオリーブ油か水

を坐薬のとがった先に垂らした後、赤ちゃんにオムツを替える要領でお尻を上げ、坐

薬のとがった方から肛門に素早く深く入れて下さい。直ぐに出てきてしまうことがあるので30秒ほど肛門を押さえておくといいですね。坐薬が出てきたらもう一度入れ直して下さい。若し、半量の場合はフィルムのままナイフやはさみで斜めに切ります。残った半分は次回に使えますよ。ただし、2/3個の使用で1/3個しか残らない場合は捨てて下さいね。



薬剤部
通信

Correspondence
from
Pharmacy

●「困っています。熱性けいれんの予防のために坐薬を2種類買いましたが、どう使えば良いのか教えてください！」

2種類の坐薬を買われてどちらから使えばいいのかな？続けて使うのかな？と困っておられるお母様方をお見かけします。そんな質問にお答えして。

◆熱性けいれんの予防のための2種類の坐薬の使い方

抗けいれん坐薬（ダイアップ、ワコピタル）と解熱鎮痛坐薬（アルピニー、カロナール、アンヒバ）を一緒に使う場合は30分以上あけてから使ってくださいね。

何故って一緒に使うと抗けいれん坐薬の最初の効き目が落ちるからです。

坐薬を入れたのに38.5℃以上の熱が続く場合は8時間後にもう一度だけ坐薬を入れて下さい。熱が続いても2回以上坐薬を使わなくても良いですよ。何故ってお薬の効き目が長い間続くからです。

ただ、熱性けいれんは体温が急に上がる時に起こりやすいので、37.5℃前後の熱に気が付けば直ぐに抗けいれん坐薬（ダイアップ、ワコピタル）を肛門に深めに入れて下さいね。若し、何か分からないことがあったらひとりで悩まず気軽に主治医の先生や薬剤師にご相談下さいね。きっと色々なアドバイスを聞くことができると思いますよ。赤ちゃんは何も自分から話すことができません。ご家族の皆様や病院の職員みんなで大切にしてあげたいですね。

◆病理検査室編 主任検査技師 吉田憲治

皆さん病理検査ってご存知ですか、血液検査や細菌検査はよくしているとおもいますが、病理検査はあまりよく知らないとおもいます。病理検査には組織診検査と細胞診検査があります。

●組織診検査とはどんな検査

皮膚の一部や手術で摘出した組織を病理検査室で検査してもらいます、と言われたことがある人もおられると思います。病理検査室に提出された組織は下記のような方法で検査しています。

固定 摘出した臓器をホルマリンに浸ける。

包埋 組織には水分、脂肪があるのでそれを取り除き、パラフィンで固める。

薄切 2~3ミクロン（1ミクロンは1000分の1ミリ）の厚さに切ってスライドというガラスの板に載せる。

染色 細胞に色をつける。（核と細胞質）

以上の方法で出来た組織標本を病理医と言う専門医が顕微鏡で見て、診断した結果を臨床の先生に報告します。

又組織診検査には迅速検査と言う検査があります。それは手術中に、摘出した組織を診断してもらいその後の処置をきめたいときに行う検査で、摘出した組織を瞬間冷凍して固め、薄く切って染色し、出来た標本を顕微鏡で病理医が見てすぐに手術室に診断した結果を報告するものです。

●細胞診検査とはどんな検査

小児科ではあまり行わない検査ですが、一般の病院では婦人科の子宮癌検診、呼吸器科の肺癌検診などで行う検査です。子宮腔部を擦過したものや喀痰をアルコールで固定し、染色して顕微鏡で観察し、出ている細胞が悪性細胞か否か、またどんな細胞が出ているか調べる検査です。細胞診検査に出される検体としてその他に尿、乳腺分泌物、体腔液、いろいろな穿刺液などがあります。

Note
from
Lab
検査部
からの
おしらせ

看護部
だより
About
nursing
care

◆NICU

- 平成6年に周産期センターがオープン、第3次救急医療施設としてハイリスク新生児を24時間体制で受け入れています。
- NICUは病床数15床、早期産児や疾患を持つ新生児の、救命を目的とする呼吸・循環の管理が行われており、緊急医療、長期にわたる集中治療が特徴です。高度な医療技術・看護技術が必要とされるため、新生児科医師（7名）・看護師（40名）のチームワークにより、迅速かつ適切なケアを行っています。新生児搬送専用救急車があり、必要に応じて新生児搬送や分娩立合いを行っています。
- 赤ちゃんそれぞれの成長・発達に応じた優しい環境を提供し、処置や過剰な光刺激・音刺激によるストレスをできる限り減らしながらケアしています。
また、生まれてすぐにご家族と離れて入院する赤ちゃんに、赤ちゃんを見守るご家族とがより良い時間を過ごせるような環境作りにつとめています。

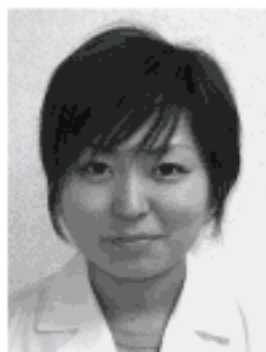


平成15年度 第4回 兵庫県立こども病院 周産期医療研修会について/ご案内

こども病院では本年も周産期医療従事者を対象とした、標記の研修会を下記のとおり開催いたします。

1. 日時	平成15年12月20日(土)午後2時～5時	5. 対象者	医師、保健師、助産師、看護師、等周産期医療に関わる方。ただし、必ず受講の申込みをしてください。
2. 場所	兵庫県民会館 9階ホール 神戸市中央区下山手通4-16-3 TEL (078-321-2131)	6. 申込み方法	参加申込書にご記入の上、FAX (078-735-0910)にて兵庫県立こども病院総務課あてまでお申込みください。 なお、大ホールを準備しておりますが、万一、参加希望者が多数の場合、お断りさせていただくことがあります。ご了承ください。
3. 研修内容	「多胎妊娠の問題点とその管理」 兵庫県立こども病院周産期医療センター 産科部長 原田 明	7. 申込み期間	平成15年11月1日(土)～11月30日(日) (期間は厳守してください)
4. 特別講演	「未熟児網膜症 果てしなき戦い」 兵庫県立こども病院周産期医療センター 名誉院長 山本 節	8. 参加料	無料

医事課
ニュース
News
from
Administration
office



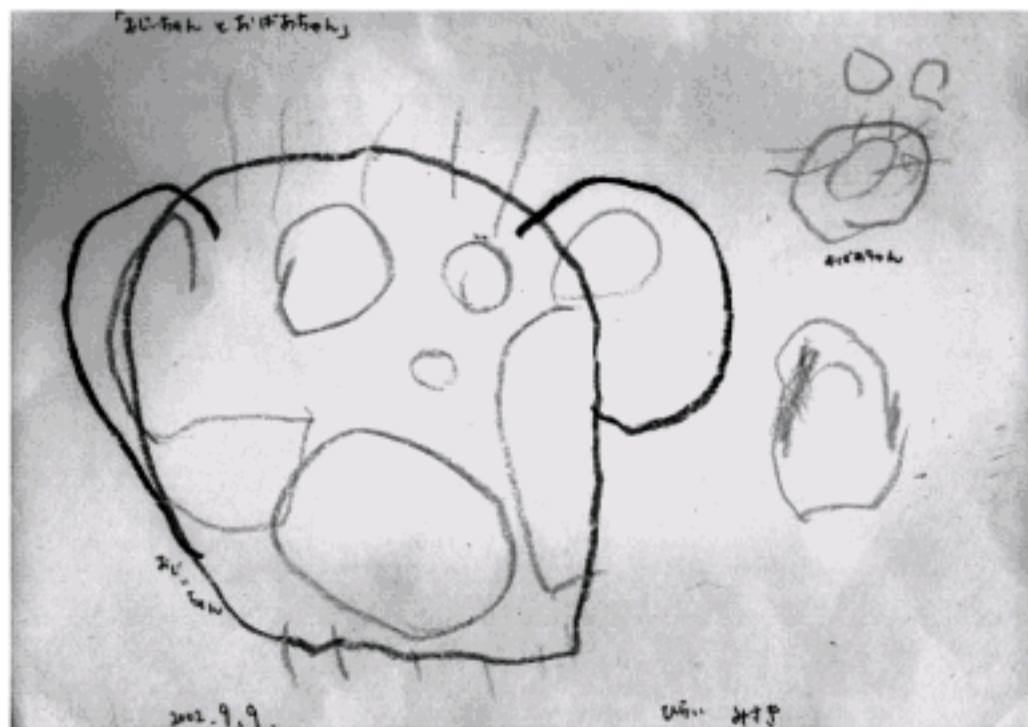
はじめまして！医療ソーシャルワーカーとして今年の7月からこども病院で働いている、野口といいます。皆様が会計をされる、医事課の中で働いています。医療ソーシャルワーカー??一体何をしているの??という声がきこえてきそうです。まずは、どんな小さな不安や疑問でも、気軽に相談していただければ、と思います。どんな小さなことも、抱えたままでは気分もよくないですよね。誰に相談すればよいかわからないことも多いかと思います。いろんな疑問や不安の解消のお手伝いをいたします。また、いろいろな制度やサービスがありますが、ご存じですか？正しく制度を理解していただき、活用していただきたいと思います。私自身、わからないことだらけですが、皆様のお力になれるよう勉強しておりますので、よろしくお願いいたします。

こどもはピカソ

大きいのがおじいちゃん。おばあちゃんは、蝶々のようにおじいちゃんのまわりを楽しそうに飛んでいます。そして、みさきちゃんを見守ってくれています。

絵

血液内科主体病棟／ひらみみさきちゃん 3歳



「こぐまのサーカス」
テディベア展を見て..



9/3 息子が大きくなった時の為にビデオにとりました。とても楽しみです。

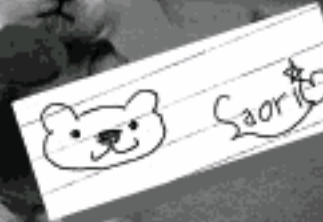
毎日会いに来たいくらい可愛いです！夢と希望・楽しさを感じます。来て良かったです。

9/4 生まれて1年、表情の変わった子からこのテディベアを見て笑うまでに成長しています。1才半。元気に育っています。

診察の結果に気がぬけていました。かわいいテディベア達を見れば少し安心しました。

お洋服などの小物にもとても手がこんでいて、素晴らしいと思います。見ているだけで、自然と笑顔がこぼれそうです。

とてもかわいかったです。入院中にこのような会に行けて良かったです。





基本理念

私たちは周産期医療および小児医療専門施設として母子、小児の総合的、高度専門的な医療を提供いたします。

基本方針

1. 私たちは患者の皆様および家族の人権と意志を尊重し、常に幅広い医療に関する情報を提供し、安心していただける医療を提供します。
2. 私たちは患者の皆様のプライバシーを尊重するとともに、望まれる情報は積極的に開示します。
3. 私たちは他の医療機関と連携を密にし、健康管理と予防医学にも取り組み、中核病院としての責務を果たします。
4. 私たちは専門的知識や技術の向上に努めるとともに、地域の皆様への医療啓発や医療関係者の生涯教育に努めます。
5. 私たちは職員の協調と活性化を図り、経営の健全化に努めます。

◆編集後記

秋も深くなり、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？今季号の編集を担当致しました池上です。初めての編集作業でとまどいを隠せませんが大勢の方々に楽しく読んで頂けるよう頑張りましたが、いかがでしたでしょうか？ドキドキしております。これからも楽しい紙面になるようにスタッフ一同努力してまいりますのでよろしくお願い致します。次季号の編集は菰野が担当しますのでお楽しみに！

兵庫県立こども病院広報誌編集委員会
芦原龍彦 池上由香 大橋正伸 菰野朱美
齊藤富美代 屈眞貴子 山崎武美

本誌に関するご感想、ご希望、ご質問はこちらまで。

兵庫県立こども病院

〒654-0081神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL078-732-6961 FAX078-735-0910

URL:<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>

E-MAIL:info_kch@hp.pref.hyogo.jp